

昨年度委員会の振り返り

(1) 第1回札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会 議事要旨

1) 第1回目 議事要旨

開催概要

日 時 平成22年1月13日(水) 10:00~11:30
開催場所 すみれホテル 3階ヴィオレ
出席者 別添資料参照

議事概要

(ア) 策定委員会の組織体制について

- ・ 策定委員会の委員長を小林英嗣、副委員長を田村亨とする。
- ・ 策定委員会の事前協議を行うため、運営部会を設置する。運営部会の委員選定については、策定委員会委員長に一任する。

(イ) 札幌駅交流拠点再整備構想の考え方について

- ・ 将来の札幌駅交流拠点を考えるにあたっては、これまでのような成長戦略ではなく、既存ストックを活用して空間や都市機能などの質を高めていくことが求められる。
- ・ 第4次札幌市長期総合計画で掲げられている「世界都市」などの既存の考え方に捉われることなく、「人」、「環境」、「創造」といった新しいキーコンセプトが出てくると良いのではないかと。今後の検討においては、これまでの計画の中から「捨てる考え方」と「新しい考え方」のメリハリをつける必要がある。
- ・ 札幌駅交流拠点には、札幌市圏における産業施策と結びついた空間的な位置づけが必要である。
- ・ これからのまちづくりは100年単位で考えるべきである。札幌駅交流拠点においても、少なくとも、30年から50年後のことを考えてまちづくりをしていかななくてはならない。
- ・ 札幌駅交流拠点再整備構想策定後のマネジメントについても考えておくことが必要であり、そのためには、民間事業者も含めた事業主体と事業手法を整理することが重要である。
- ・ 北海道や札幌広域圏といった広い範囲の中で札幌駅交流拠点の考え方を整理する必要がある。

(ウ) 札幌都心の活性化について

- ・札幌都心の商業情勢については、大丸札幌店の売上増加が目立っているが、札幌都心全体の売上が増加していないことが課題である。人口減少や不況などの社会情勢を踏まえると、札幌駅周辺地区だけで都心全体に必要な売上を確保することは難しい。札幌都心は、札幌駅周辺地区、大通地区、すすきの地区の距離が非常に近く、一体的な空間といえる。札幌駅地区、大通地区、すすきの地区のどれかではなく、都心の一体的な発展が重要である。
- ・札幌駅交流拠点には、大通交流拠点や創成交流拠点との役割分担が求められる。

(エ) 交流拠点としての札幌駅について

- ・これまで札幌市は、観光都市としての政策を進めてきたが、都市観光の施策は遅れている。都市観光という産業を考える必要がある。
- ・札幌駅前通地下歩行空間の整備が完了すると、札幌都心の人の流れに変化が生じる可能性がある。
- ・札幌駅交流拠点からまちへの誘導、人の流れをどうつなぐかについて、ソフト面・ハード面の両面で考える必要がある。

(オ) 新たな交通モードへの対応について

- ・札幌駅交流拠点に関連する新たな交通モードは北海道新幹線と路面電車であり、策定委員会と並行して議論されているので、情報交換をしながら検討を進めていく。
- ・路面電車延伸の議論については、交通マスタープランなどの交通体系全体の中で位置づけを議論していく。策定委員会の中で路面電車の延伸によるメリットについても議論していきたい。
- ・北海道新幹線の札幌駅乗り入れやそれに伴う札幌駅の整備については、道北や道東など全道の支持も得られるように、全道への波及効果について考えていくべきである。北海道新幹線の札幌駅乗り入れについて、札幌駅交流拠点再整備構想を全道に PR する材料として使うことも考えられる。
- ・北海道新幹線の札幌駅乗り入れの大きなインパクトをどのように活かすかが重要となる。

(カ) 環境の視点について

- ・ エネルギーマネジメントに関しては、飲食・観光・交通などの様々な都市施設との連携が重要である。
- ・ 札幌都心におけるマイクログリッド（複数の分散型電源と供給先設備をネットワーク化して、発電と供給を一定地域内で最適制御するシステム）の展開が市民に見えるようにした方が良い。

(キ) 市民参加について

- ・ プランニングセルによって選出した市民が参加するワークショップを平成 22 年 2 月 13 日（土）及び 2 月 21 日（日）に開催する。
- ・ 平成 22 年度には、留学生と学生が参加するワークショップや、札幌市民以外の意見聴取のための WEB アンケートの実施を検討している。

(ク) 国政の情報提供

- ・ 来年から国の補助事業が新交付金になる。詳細については未定であるが、補助対象の範囲が広がり地方の使い勝手が向上する予定である。国政の状況については、適時情報提供を受けながら検討を進める。

(ケ) 次回の第 2 回札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会について

- ・ 次回の第 2 回札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会は、3 月 26 日（金）を中心に調整を進める。



(2) 第2回札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会 議事要旨

1) 第2回目 議事要旨

開催概要

日 時 平成22年3月26日(金) 14:00~16:00
開催場所 札幌市教育文化会館 305 研修室
出席者 別添資料参照

議事概要

- (ア) 札幌駅交流拠点再整備構想策定委員会と都心まちづくり戦略との関係について
- 札幌駅交流拠点再整備構想策定委員会で都心まちづくり戦略に関係する意見が出た場合は、必要に応じて札幌市がその関係性について検討していく。なお、都心まちづくり戦略の検討期間は、平成23年秋頃までを予定している。
- (イ) 札幌駅交流拠点再整備構想と路面電車の活用方針との関係について
- 札幌駅交流拠点再整備構想策定委員会は、路面電車の具体的な活用方法について議論するものではないが、路面電車の活用方針を札幌駅交流拠点再整備構想の前提条件として捉えて検討する必要がある。
- (ウ) 市民意見の把握について
- 一つの意見でも重要な意見があるので、多様な市民意見を得票数が多いから重要であると整理することは好ましくない。意見を類型化していくとその過程で意見が抽象化されてしまうので、一つ一つの意見が浮かび上がるような整理をしてほしい。
 - 人口減少が進んでいることと同様、都心部の事業者数も減少している。都心部の活性化を考えるためには、今後の市民意見の把握の中で都心部の事業者の意向を調査することも考えられる。
 - 今後、市民意見の把握を行う場合には、高齢化社会の中で市民が望むライフスタイルを調査してみてもどうか。また、地方都市に住む人は札幌に訪れた際どう楽しむのか。そういったライフスタイルを把握することも考えられる。
 - 人口減少が進み人々のライフスタイルが変化している状況において、実際に札幌や地方都市に住む人はどのようなライフスタイルをおくっているのかについて把握することも考えられる。

(イ) 将来の交通体系を検討する論点について

- ・ 交通関連の検討を行う際には、空港や観光との関係も重要な論点の一つである。空港との交通体系については、高速道路と都心のアクセス強化についても議論が必要である。その際は札幌駅の北側にも焦点をあてる必要がある。
- ・ 駐車場の配置については、パークアンドライドなどのように車の締め出しと公共交通の利用促進をセットで考えることもできる。
- ・ 札幌駅周辺地区の駐車容量の限界値を考慮しなければならない。札幌駅周辺のみで全ての駐車場需要に対応できない場合は、他の場所との駐車場連携も考えられる。
- ・ 札幌市では、総合交通計画の検討の中で、来年度に駐車場基本計画の見直しを行う。付置義務駐車場などについて見直しを行う予定である。
- ・ 少しずつ交通需要が減少していく中で、交通関連の検討にあたっては、都市環境と観光と合わせて考えることが必要ではないか。
- ・ 路面電車の活用方法については、規制の論理ではなく、メリットを伸ばす考え方が望ましい。まち全体でスムーズな交通体系が構築されていることが重要である。

(オ) 低炭素社会の実現に向けた論点について

- ・ 今年3月に閣議決定された地球温暖化対策の中で、地域づくりの方向性について、都市機能の集積、自動車の適正利用、緑化の推進の3つが示されている。全て地球温暖化対策に則って環境問題を考える必要はないが、重要な視点の一つである。
- ・ 低炭素社会の実現のためには、今後エネルギーネットワークという視点が重要性を増す。これまでは街区ごとでエネルギー効率を考えていたが、今後はより広いエリアでのネットワーク構築が必要となる。
- ・ 今後の低炭素社会の実現に向けては、施設を作る側、施設を使う側、エネルギー供給する側の3者間でエネルギーの見える化が必要となる。それがエネルギー削減のインセンティブや市民意識向上につながる。

(カ) 少子高齢化が進む中でのまちづくりについて

- ・ 人口減少と同様、都心部の事業者数も減少している。都心で働く人が快適に暮らせるまち、事業所が撤退しないまちという視点では、創成川以東のまちづくりは人が中心になるのではないか。ビルの省エネルギー化や交通の利便性向上なども事業者の快適性につながる。
- ・ 高齢化に対する議論はあるが、少子の対策についての議論は少ないように感じる。子供に愛される雪まつりの継続など、次世代につなげる議論も必要である。

(キ) 世界都市の実現に向けた論点について

- ・ 国際交流や文化といった視点では、北海道大学は自然もあるし交流の場でもあり重要な資源である。
- ・ 外国人が日本を訪れる際に、札幌を選択するようなシンボルについての議論が必要ではないか。
- ・ 市民検討会の結果として、創造都市や国際都市というキーワードがあげられるが、それらのキーワードを実現するためには、大学や若い人との関わりがあるべきだと思う。
- ・ 創造都市や世界都市の拠点について、導入機能や開発方法、そして魅力の維持のためのソフト事業などを調査・整理して、札幌駅交流拠点再整備構想の議論を進めてはどうか。合わせて世界規模のマーケットの中で札幌の強みをどのように発揮するかについても議論が求められる。
- ・ 世界都市は、ニューヨークやロンドンなどの1千万人級の都市だけではなく、その他にも様々な捉え方がある。世界都市を考える際には、北方圏の中の札幌、東アジアの中の札幌、世界中から観光客が集まる札幌といった切り口が考えられる。
- ・ ヨーロッパのサッカー連携などのように、世界的には都市が同じ共通点で連携しながら巨大な世界都市と肩を並べていこうという考え方がある。都市間連携より競争に打ち勝とうとしている都市は、パリやロンドンといった大きな規模を求める考え方はしていない。
- ・ また、例えば札幌のパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)といった国際的な音楽祭や JR 札幌病院といった高度医療機関が都市の国際的な個性や魅力になるのではないか。
- ・ 都市間連携の連携先がどのような都市かという視点が必要である。例えば、連携先の都市が莫大な投資が行われる国家拠点であれば連携によるメリットが大きい。
- ・ 中国の農業、林業、農業経営などの普及を目的とした国家拠点である西北農業林業大学では北海道(大学)との連携について興味を持っていた。世界から期待されている北海道について、情報収集のアンテナを伸ばしておく必要がある。

(ク) 都心の機能配置に関する論点について

- ・ 路面電車が走る空間はゆったりとした時間が流れる特徴を持つ。都心は全ての場所が同じ顔ではなく、場所ごとの個性を伸ばして都心全体の魅力を高めるという考え方もある。
- ・ 札幌駅周辺地区や大通地区を個別に捉えるのではなく、都心は一つという考え方をもちたい。都心全体の構造、人の流れ、魅力を考慮した上で、札幌駅交流拠点が都心全体の発展に寄与するという視点が必要である。大通・すすきの地区のポテンシャルアップについても丁寧に考えていきたい。

(ケ) 新幹線札幌乗り入れ後の論点について

- ・ 新幹線札幌乗り入れが実現すると東北地域が札幌駅から2時間圏内になる。東北地域に東京よりも札幌を選択してもらう議論が重要ではないか。
- ・ 北海道内の既存鉄道ネットワークの時間距離については、将来も大きく変わらない。
- ・ 新幹線札幌乗り入れにより、札幌と盛岡が2時間圏内で結ばれるという想定は、新幹線の速度を時速350kmに設定している。しかし現実的には、盛岡より北の区間は時速320kmの走行も難しい状況である。

(コ) 札幌駅交流拠点再整備構想の検討範囲について

- ・ 札幌駅交流拠点再整備構想の検討範囲を明確にして、共有した上で札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会や今後の市民意見の把握を進めるべきである。時間、空間、現実的なプロセスなどの視点で意見を仕分けしないと、議論がまとまらなくなってしまう。

(カ) その他の検討が必要な論点について

- ・ 現在の経済環境の中で20年後を見通すのは困難であるが、短いスパンで考えずに長いスパンで札幌駅交流拠点のあり方について議論していくことが必要である。
- ・ JR札幌病院をはじめとする医療も大事な都市の力である。

(シ) 次回の札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会について

- ・ 第2回札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会の結果をもとに、札幌駅交流拠点再整備構想の検討にあたっての論点を追加する。



(別添資料)札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会 出席者名簿

(委員)

敬称略

区分	委員氏名	所属等	第1回委員会 (平成22年1月13日)	第2回委員会 (平成22年3月26日)
学識	市岡 浩子	札幌国際大学 観光学部 観光経済学科 教授	出席	出席
学識	小林 英嗣	北海道大学大学院 工学研究科 教授	出席	出席
学識	田村 亨	室蘭工業大学 建設システム工学科 教授	出席	出席
学識	平本 健太	北海道大学大学院 経済学研究科 教授	出席	出席
学識	村木 美貴	千葉大学大学院 工学研究科 准教授	出席	出席
経済	大橋 裕二	(株)日本政策投資銀行(DBJ) 北海道支店 企画調査課 課長	出席	出席
経済	鈴川 巧	(株)北海道熱供給公社 理事 営業部長	出席	出席
経済	西川 幸伸	札幌商工会議所 部会・産業部長	出席	出席
鉄道事業者	斉藤 寿	JR北海道 総合企画本部 地域計画部長	出席	代理 (倉谷主幹)
国	傳法谷眞光	国土交通省北海道開発局 事業振興部 都市住宅課長	出席	出席
国	渋谷 元	国土交通省北海道開発局 建設部 道路計画課長	出席	出席
道	上谷 誠司	北海道 建設部 建設管理局 建設政策課 参事	出席	出席

(オブザーバー)

道	佐藤 均	北海道環境生活部生活局 道民活動文化振興課 参事	欠席	欠席
道	谷 文雄	北海道総合政策部新幹線・交通企画局 新幹線対策室 参事	代理 (鳴海主幹)	出席
市	瀬川 誠	札幌市 市長政策室 政策企画部長	出席	出席
市	星 卓志	札幌市 市民まちづくり局 都市計画部長	出席	出席
市	丸田 剛久	札幌市 市民まちづくり局 総合交通計画部長	出席	出席
市	井上 力	札幌市 市民まちづくり局 総合交通計画部 新幹線推進室長	欠席	欠席
市	相原 重則	札幌市 都市局 市街地整備部 開発調整担当部長	出席	出席

(事務局)

市	吉岡 亨	札幌市市民まちづくり局 理事	出席	-
	市民まちづくり局 都市計画部 都心まちづくり推進室			
	八柳 壽修	都心まちづくり推進室長	出席	出席
	高森 義憲	同推進室 事業調整担当課長	出席	出席